

1. 当四半期決算の経営成績に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間においては、石炭市況の上昇やI P P発電所の定期修理等の影響がありましたが、合成ゴム、ナイロン等化学品の市況が是正されたこと、工業薬品の隔年実施の定期修理がなく生産・出荷が増加したこと、堅調な国内需要を背景にセメント・生コン等の販売数量が増加したことなどにより、販売は堅調に推移しました。

この結果、当社グループの連結業績は、次のとおりとなりました。

単位：億円

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
当第2四半期①	3,271	226	237	157
前年同期②	2,810	115	103	71
差異①－②	460	111	134	86
増減率	16.4%	96.4%	129.9%	122.1%

(2) セグメント別の説明

(売上高)

単位：億円

セグメント	当第2四半期①	前年同期②	差異①－②	増減率
化学	1,463	1,179	283	24.0%
医薬	51	45	6	13.5%
建設資材	1,159	1,097	62	5.7%
機械	357	266	90	34.1%
エネルギー・環境	330	266	63	23.8%
その他	22	70	△47	△68.1%
調整額	△113	△115	2	—
合計	3,271	2,810	460	16.4%

(営業利益)

単位：億円

セグメント	当第2四半期①	前年同期②	差異①－②	増減率
化学	133	4	128	—
医薬	16	11	5	46.6%
建設資材	58	73	△15	△20.7%
機械	13	7	5	72.9%
エネルギー・環境	6	17	△10	△63.8%
その他	2	2	0	14.2%
調整額	△4	△1	△2	—
合計	226	115	111	96.4%

化学 … 増収増益

■ナイロン・ラクタム・工業薬品事業

ラクタム事業は、中国市場が引き続き供給能力過剰ながらも価格が是正されたことから、増収となりました。

ナイロン事業は、原料ラクタム価格の上昇に伴い販売価格が上昇したことから、増収となりました。

工業薬品事業は、隔年実施の定期修理がなかったため生産・出荷が増加したことから、増収となりました。

■合成ゴム事業は、原料ブタジエン価格の上昇に伴い販売価格が上昇し、また国内のタイヤ用途を中心に出荷は概ね堅調であったことから、増収となりました。

■電池材料・ファイン事業

電池材料事業は、市場拡大にともない競争が激化する中で、車載向けを中心とした堅調な需要を背景に販売数量が増加したことから、増収となりました。ファイン事業は、総じて販売数量が増加したことから、増収となりました。

■ポリイミド・機能品事業

ポリイミド事業は、回路基板向けを中心にフィルムの販売数量が増加したことから、増収となりました。

医薬 … 増収増益

■医薬事業は、自社医薬品・受託医薬品ともに販売数量が増加したことから、増収となりました。

建設資材 … 増収減益

■セメント・生コン事業は、国内需要の増加により販売数量が増加したことから増収となりましたが、石炭価格上昇の影響を受けました。

■カルシア・マグネシア・建材事業は、総じて販売数量が増加したことから、増収となりました。

機械 … 増収増益

■成形機・産機事業は、製品の販売が堅調であり、また新規連結子会社が加わったことから、増収となりました。

■製鋼事業は、堅調な国内需要を背景にビレットの販売数量が増加したことから、増収となりました。

エネルギー・環境 … 増収減益

■石炭事業は、販売数量及びコールセンター（石炭中継基地）での取扱数量は増加し、また石炭市況の影響により販売価格が上昇したことから、増収となりました。

■電力事業は、発電量は前年同期並みでしたが、石炭市況の影響により販売価格が上昇したことから、増収となりました。なお、I P P発電所は定期修理を実施しました。

その他 … 減収増益

(3) 連結業績予想などに関する説明

平成29年10月26日に開示しましたとおり、当第2四半期累計期間の売上高は当初予想を下回るものの、利益は当初予想を上回りました。この要因により、通期の業績予想について、売上高6,850億円、営業利益450億円、経常利益450億円、親会社株主に帰属する当期純利益290億円へ修正しております。